

## 自費出版「知って納得！薬のおはなし」



このたび、本ニュースのいくつかをテーマ別に分け一冊にまとめた本を「**幻冬舎ルネッサンス新書**」として自費出版しました(2021年7月28日付け)。本ニュースに関しては、たまにですが「おもしろい」、「役に立つ」、「間違っている」、「難しすぎる」、「言い過ぎている」、「他書のパクリでは?」、「本にしたら」などのご意見を頂いてきました。その中で最後の「**本にしたら**」という何人かからのご意見を**本気**で受け止めて、昨年あたりから始めだした終活の一環として自費出版することに致しました。2~3年前に何人かの方には自費出版ならぬ手作りの**自作出版本**を購入して頂いた経緯もありますが重複する内容がいくつかあります。ただ構成が異なり、言い過ぎたところや間違いなどを適宜修正した上に、普段はA4版2枚に収まるよう適宜省略した部分を加筆し、さらに出版社の「幻冬舎ルネッサンス新社編集部」の皆さんによる校正も入っていますので、かなり読みやすくなっていると思います。

しかし読みやすくしたとはいえ、ふつうの「新書」版は一般の方に広く読んでもらえるように分かりやすくする工夫をされているはずですが、もともと薬剤師向けのニュースであったのと、さらに読みやすくなるための手間を加える気力がほぼなかったため、一般の方にはほぼ付度なしの表現になってしまった感があります。さらに校正の際に見逃した不適切な部分は確実にあると思われま

す。「新書」版の利点は小ぶりなため、寝転びながら読んで途中眠ってしまい本が顔に落ちてきても衝撃が少ないという点があげられるでしょう。ただ本書は当初A5版サイズを考え原稿を作成していましたが、出版社さんの方針で新書版になった経緯もあり、新書版としては多めのページ数となったため、顔へ落ちてきた際の衝撃は意外とあるかもしれませんのでご注意ください。

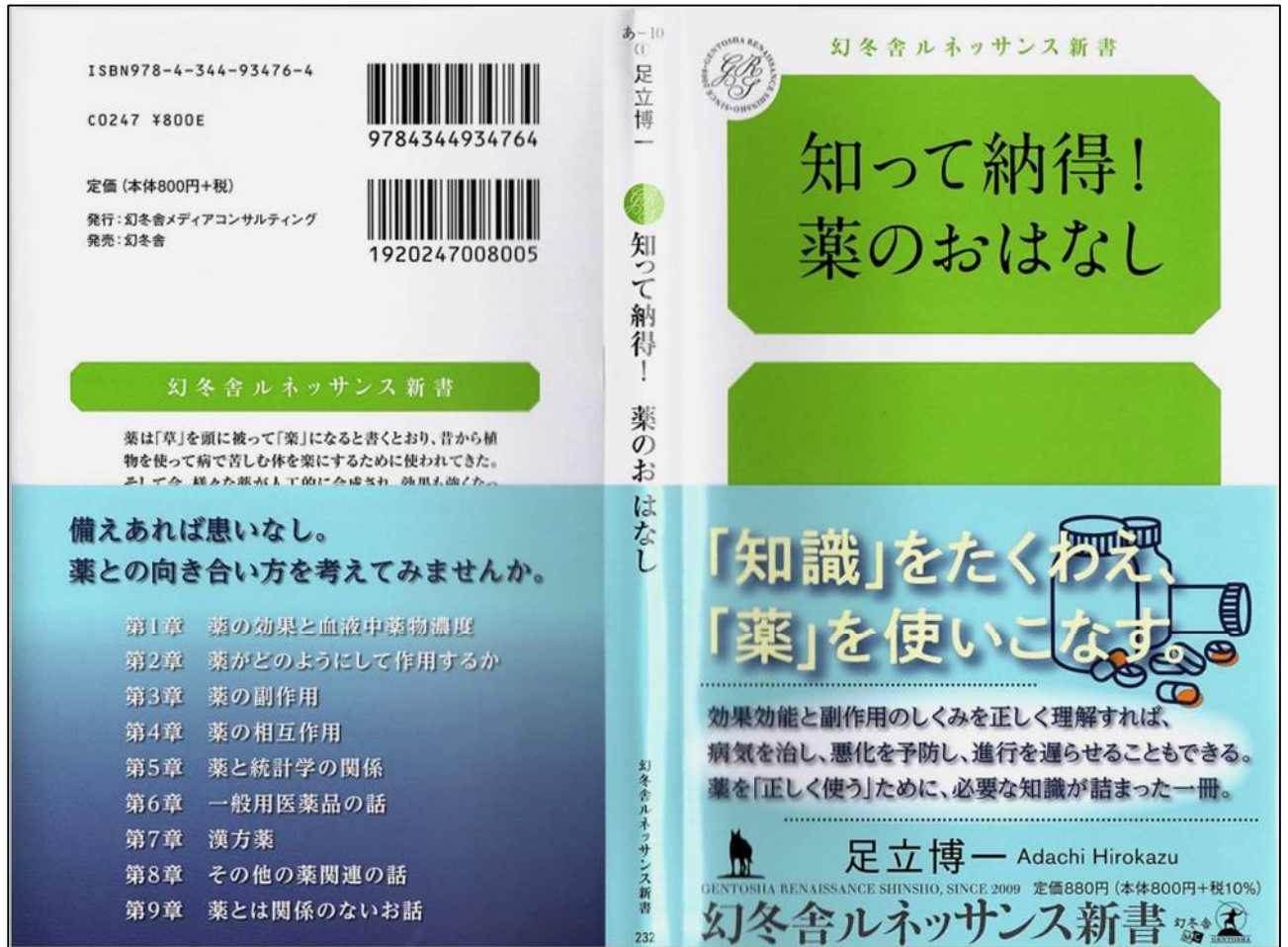
これまで本ニュースを見られている方々は、ご存知とは思いますが様々な先生の書籍とその考えなどを応用しながら、想像たくましくした部分が多々あります。そこはSFならぬ**PF (Pharmaceutical Fiction : 薬学的空想話)**ととらえて頂き、一つの読み物として、また睡眠薬代りにご利用して頂ければと思います。自費出版のため発行部数はかなり限定されているため、皆さんの近くの書店にはおそらく置いていないと思いますので、ちょっと読んでやろうと思われる方は書店で注文されるか、紀伊國屋書店やアマゾンなどのオンラインショップでお求めください(オンラインの場合は本書に見合わない**送料**が別途かかると思いますヨ!)。なお価格は1冊**800円(税込み880円)**になります。

もし本書の内容を何かにご利用される場合は、**最新の添付文書**などを必ず確認していただき、かつ私の不適切な表現部分や理解不足の部分は適宜修正して、著作権への基本的な注意事項も考慮した上でご利用ください。

出版社さんは本を出す以上「**売れなければ意味がない**」というポリシーを持っているためタイトルや帯などは購入者に注目してもらえるように次ページのようなキャッチーで結構大げさな表現(これでも私は抑制をお願いした結果)になっていますが、これはこれで出版社さんのプロ根性として受け入れています(どの分野でも**プロ根性は必要**です!)。もし読んでみて面白いと思われた方は、お知り合いの薬剤師や登録販売者の方々に購読を勧めて頂き本書の売りに貢献していただければ幸いです(笑)。

本文中に何か所か、このような場合は薬剤師にお尋ねくださいという表現がありますので、もし一般の方から質問があれば、薬剤師の方、よろしくお願ひいたします。(終わり)

【帯つき新書版の表と裏の紹介】(新書ではあまり見かけませんが本文は横書きになっています)



【本書の目次】(実際の各項目には添え数字で本ニュースのバックナンバーを表記しました)

目次	
はじめに	2
第1章 薬の効果と血液中薬物濃度	7
1) 薬は飲み始めてからいつ頃に効いてくるのか?	9
2) 薬を飲み忘れた! どうすればよいのか?	18
3) 薬を飲み忘れたとき、2倍量飲むとどうなるのか?	20
4) ロコア®テープを剥がした後の対応	24
5) 定常状態での最高血中濃度の推定	29
6) 謎の式 $1/(1-e^{-kt})$ でなぜ蓄積率を表せるのか?	31
7) 薬物動態パラメーターのバラツキ	33
8) 体重と血中濃度の関係とは	36
第2章 薬がどのようにして作用するか	43
1) 慢性閉塞性肺疾患に使われる吸入薬	44
2) H <sub>1</sub> 受容体拮抗薬とH <sub>2</sub> 受容体拮抗薬の構造	47
3) スルホンアミド構造と薬理作用	56
4) β遮断薬について	62
5) ビルシカイニドとベラパミルの頓用	68
6) 大腸菌死菌の作用とは	73
7) 局所麻酔薬の内服薬	78
第3章 薬の副作用	83
1) 副作用の作用機序別分類	84
2) テトラサイクリン系抗生物質の副作用例	90
3) 重大な副作用から見える薬の性質	94
4) 添付文書の重大な副作用の肝障害はアレルギー型副作用か	114
5) 筋肉肥厚という副作用	117
6) ペンプロバリンで音が高く聞こえる	123
7) スタチン系薬剤と高血糖	128
8) 利尿薬が血清カルシウム (Ca) 値に与える影響	133
9) スタチン系薬剤と横紋筋融解症と筋肉障害	138
10) 酸化マグネシウムと高マグネシウム (Mg) 血症	143
第4章 薬の相互作用	149
1) スタチン系薬の制酸剤とイオン交換樹脂との相互作用	151
2) ニューキノロン系抗菌薬とNSAIDsの併用	157
3) 薬効が正反対の薬が処方された場合の対応	164
4) オルメサルタンで色が付く	171
第5章 薬と統計学の関係	179
1) 統計学を利用する上での基本的な理解について	180
2) 医療用の漢方薬エキス剤と一般用薬の漢方薬エキス剤の比較	186
3) 薬物動態パラメーターのバラツキ	190
第6章 一般用医薬品の話	193
1) 婦人用薬の一般用医薬品	195
2) 効果のある一般用医薬品もある	200
3) ビタミンB <sub>6</sub> 、B <sub>12</sub> 、B <sub>12a</sub> 主薬製剤	203
4) ガンマオリザノールとフェルラ酸	207
5) グルコン酸カルシウムと一般用医薬品	212
第7章 漢方薬	219
1) 漢方薬は急性疾患にも慢性疾患にも使用される	220
2) 漢方薬の併用療法	227
3) 遠志エキス製剤は物忘れに本当に効くのか?	230
第8章 その他の薬関連の話	237
1) 対になった臨床検査値	238
2) 酸性薬物と塩基性薬物	244
3) てんかん閾値を下げる薬	249
4) 非線形型薬剤とCYP2D6	254
5) 腎排泄型薬剤と腎機能	259
第9章 薬とは関係のないお話	269
1) 人類の進化	270
2) 日本の歴史始め	275
おわりに	285
参考資料	288